

## はじめに

岩手県環境保健研究センターは、平成13年に衛生研究所と公害センターを再編統合し、平成17年に県内保健所の検査部門を統合して現在に至っています。

開所以来、健康や環境に関する科学的・技術的拠点として、県民の皆様の健康とiwateの環境を守るため、保健所や関係機関と連携しながら、試験検査、監視測定等の業務や研究に取り組んでいます。

令和元年度にスタートした「いわて県民計画(2019～2028)」では、各政策分野に「いわて幸福関連指標」を定め、県民一人ひとりの幸福を守り育てる取組を進めているところです。当センターとしても健康づくりの推進や食の安全・安心の確保、感染症対策の推進、自然環境の保全に関連した試験検査、研究に取り組んでいます。また、東日本大震災津波からの復興の取組として、被災地における空間線量率や食品中の放射能物質の測定を継続しています。

新型コロナウイルス感染症については、令和2年から令和5年5月7日まで41,223件のPCR検査を実施しました。現在は全ゲノム解析により変異株の監視を行っています。

令和5年4月の改正地域保健法改正の施行により、地方衛生研究所の役割が強化されたことから、今後新たな感染症危機事案の発生に備え、体制整備や人材育成に取り組んでまいります。

今回の年報では、『健康や環境の危機管理対応』、『県民の健康と環境を守るための試験検査や監視測定』、『行政課題に対応した調査研究』、『県民、市町村、関係機関等に対する技術支援や情報発信、研修指導』などの業務状況について掲載しています。併せて研究報告として、食の安全確保に向けた『食中毒原因となる自然毒の特定方法等に関する研究』、水環境の保全のための『医薬品・生活関連物質の環境実態及び環境リスク解明に関する研究』、自然環境の保全のための『岩手県における絶滅危惧植物を対象にした種の存続の技術開発に関する研究』、『個体特性及び個体群構造に基づいたイヌワシの保全に関する研究』、『ツキノワグマの個体数推定精度の向上ならびに生息密度がツキノワグマの出没に及ぼす影響』について取りまとめた調査研究成果を掲載しています。

皆様方には、本年報を通じて、当センターの業務や研究の状況を御理解いただき、お気づきの点について御意見や御要望をお寄せください。

引き続き当センターの使命を果たすべく試験検査、研究等を実施してまいりますので、一層の御支援・御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年(2024年)2月

岩手県環境保健研究センター

所長 熊谷 正則